虹の里：集合写真

Tukushi no chikara

調教用ゼッケンで想いをつなぐオリジナルバッグ

茨城県・社会福祉法人美しの森理事　障害者支援施設虹の里　施設長
八木澤 健仁

虹の里のあゆみ

社会福祉法人美しの森は、障害のある子を持つご家族の有志の方々の熱意により、1997（平成9）年に、茨城県の美浦村に設立しました。

法人が運営する障害者支援施設虹の里やグループホームの大部分は文化財保護法に定める「埋蔵文化財を包蔵する土地」として周知されている場所にあり、まだ海が近かったとされる古墳時代（約1,500年前）の人びとが住んでいた痕跡（竪穴住居跡や土器）が多数出土されるなど、古代ロマンあふれる場所に立地しています。

この地に虹の里が開所したのは法人設立の翌年で、当時は郡内初の「精神薄弱者更生施設」（当時）でした。後の制度改正により「障害者支援施設」に改称されましたが、22年が経過した現在でも郡内唯一の入所施設として、隣接する相談支援事業所やグループホームと併せて、地域では事業規模の最も大きな障害福祉サービス事業者（拠点）としての役割を果たしてきたと自負しております。

美浦トレーニング・センター

生活介護における「生産活動」としての位置づけ

虹の里は開所以来、最重度・重度の知的障害のある方々の日常生活支援に特化して運営してきましたので、入所者40名は全員が障害支援区分5・6の重度知的障害のある方々です。従って、日中活動の取り組みは、隣接のグループホームから合流する通所者10名と共に、野菜のビニールハウス栽培や環境整備、企業から受託した作業の他、一人ひとりの障害特性に応じた創作活動やレクリエーション活動を行っています。また、過度な負担が掛からないように作業時間も正味2時間30分として、作業担当の生活支援員が小まめに利用者の状態観察を行うなどの配慮を講じています。

JRA（日本中央競馬会）との関わり

虹の里がある美浦村は、現在の人口規模で県内44市町村中3番目に人口の少ない小さな村です。この小さな村に1978（昭和53）年、競走馬の鍛練・調教を目的とした日本最大級の規模と設備を誇るJRA（日本中央競馬会）美浦トレーニング・センター（以下、美浦トレセンと略）が開場しました。しかし当時は、当法人とは桁外れの事業規模であることや、住んでいる世界がまるで違うという意識が先に立ち、何かしらでも関わりを持つ機会などはないであろうという思いを持っていました。

ところがその後、関西地区にある障害者施設において、JRA栗東トレーニング・センター（滋賀県栗東市）のご協力によって競走馬の調教用として使用済みとなったゼッケンをバッグへと加工する取り組みを、JRAの美浦トレセンでもご協力いただけるという話になり、この取り組みの仲立ち役となった茨城県共同受発注センター（茨城県心身障害者福祉協会）から、同じ村内にある当施設にお声かけいただいたことがご縁の始まりとなりました。

虹の里の作業分担

競走馬調教用ゼッケンが、お客様に販売できる状態の「ゼッケンバッグ」に生まれ変わるまでには、いくつかの作業工程がありますが、虹の里では第1次的な作業工程である「選別」「在庫管理」「洗浄（洗濯）」「付属品の取り外し」を行っています。この工程を経て、初めてバッグに加工できる状態のゼッケンとなり、第2次的な作業工程（縫製等）を担当していただく取引先（施設・企業）にお届けするまでの責任を持ちます。

ゼッケンの色は競走馬の年齢によって「黄・黒・緑」3色に分けられますが、特に美浦トレセン独自カラーである「黄」は関西の取引先から人気のある色です（滋賀県の栗東トレセンのカラーは緑に白の数字）。

使用済みとなった（加工前の）ゼッケンは、引き取りの際に職員がその場で製品に加工できるものと、そうでないものを確認・選別します。ゼッケンは、激しい調教を終えた痕跡が残っているので、汚れや破れができたり、馬毛や汗（馬は人間と同様に最も汗をかく動物の一つ）が付着しているものもあります。特に「破れ」や「激しい汚れ」が目立つものは販売には向きませんので、製品として加工できるものとそうでないものを選別し、施設で大切に保管します。これを利用者が手作業でていねいに洗濯とブラッシングを施したのち、天日干しをします。

利用者が取り組む作業自体に特に危険な工程はありませんが、最も時間を費やす「糸ほどき」の作業では、やや鋭利な道具を使用することから、道具を安全に取り扱えることが求められます。また、ミシンで

ゼッケンを洗う作業

付属品外し

フクシノチカラ

Fukushi no chikara

しずかの創造苑

縫われた糸をほどく作業は、手先に神経を集中させて行う作業のため、一定時間を集中して取り組むことができる利用者の方がこの工程を担当しています。

またゼッケンの取り引きは日々頻繁に行っているわけではありませんので、作業は不定期で行っています。

以下、1次的な作業工程（洗浄等）済みのゼッケンを用いて、2次的な作業工程（縫製等）を担当している茨城県内の事業所の取り組みをご紹介します。

社会福祉法人修倫福祉会
しずかの創造苑

しずかの創造苑は、知的障がい者を主たる対象者とした、生活介護20名・就労継続支援B型20名の多機能型事業所です。主に軽作業や農作業に取り組んでおり、自主生産米を使用した「あげもち」は人気の商品となっています。

ゼッケンバッグ製作に当たっては、虹の里さんより洗濯されたゼッケンを購入し、理事長考案のデザインで製作しています。

作業工程は、現縫製部分を手作業で解体し、バッグの型を取り、縫製、仕上げのアイロンがけを分業で行っています。解体作業では、糸と生地との色が同じため、糸をほどく際に「目が疲れる」「肩が凝る」などと悪戦苦闘しながらも、きれいに糸が抜けたときの爽快感や達成感を得られることで、やりがいを持って取り組んでいます。生地の型どりは、職員の協力を仰ぎながら切断し、縫製は一部ですがミシンを使用し、利用者が縫製も行っています。最後の作業、アイロンがけでは「しわをなくしきれいに仕上げる」ことを目標にしてがんばっています。

デザインは、A4サイズが入るトートバッグMとショルダータイプのバッグLがあり、各3色（黒・緑・黄）が選べます。馬1頭に1枚だけのゼッケンで作った、世界に一つだけのオリジナルバッグをぜひご愛用ください。

和田道代（しずかの創造苑苑長）

しずかの創造苑

社会福祉法人陽山会
はーとふる・ビレッジ

茨城県心身障害者福祉協会の事務局から、ゼッケン商品製作の提案があり、企画に参加しようということになりました。どんな商品が良いのか、買ってもらえる商品作りができるのか、心配と不安はありましたが、職員全員で話し合い、アイデアを出し合いながら作成した企画案を提出し、企画が通りました。

商品製作にあたっては、最初に工業用ミシンを購入し、インターネットで材料選びを行い、シューズバッグとカフェエプロンの製作が始まりました。シューズバッグやカフェエプロンを作るときに心掛けていることは、購入する側の立場になり、ていねいで、きれいな仕上がり、使いやすく、喜んでもらえる商品となるよう心を込めて製作しています。

試行錯誤しながら何度も何度もやり直し、1つの作品が完成しました。さらに製作枚数を重ねることにより技術も向上し、物作りに対する自信にもつながっています。利用者は、カフェエプロンに付ける馬の形のフェルト生地の裁断を担当しています。関わる作業はまだ少ないのですが、色鮮やかな生地や数字に興味深げです。作業も増えたことにより工賃向上につながればと思います。今では、地域のイベントでの販売や、地元の石岡市のふるさと納税返礼商品として定着し、マニアの間では人気商品です。

はーとふる・ビレッジの基本理念でもある、あきらめない精神で、何事にもチャレンジすることにより、できないことは無く、可能性につながることを信じて、世界に一つだけの商品作りの楽しみと喜びを感じつつ作業に取り組んでいます。

前島悦子（はーとふる・ビレッジ園長）

社会福祉法人征峯会
ピアしらとり

障害者支援施設ピアしらとりでは、黄色、緑、黒の3色のゼッケンを各10枚ずついただき、製品化を実施しました。この企画を初めて聞いた際には「はたしてちゃんと作れるのかな?」と不安でしたが、ピアしらとりでは20年以上、利用者さんの作業支援で「さをり織り」を行い、利用者さんの織った反物を職員が様々な製品にしてきており、ゼッケン縫製のノウハウは十分にありました。いただいたゼッケンを利用者さんと職員とで「どんな製品が作れるかな?」とじっくり話し合った結果、ピアしらとりでは犬用衣類やバッグ類を作ることにしました。どちらの製品もゼッケン番号を製品のちょうどよい位置に上手に配置することに苦労しました。また、ゼッケンには洗っても落ちない汚れなどもあり心配しましたが、「実際に使われたものなので、かえって汚れがある方がマニアは喜ぶんですよ!」と言われ、「なるほど……」と妙に納得しました。

実際に完成した製品は、生地が厚い分だけしっかりしており、長く使い込むには十分な仕上がりとなりました。グループホームで就労している利用者さんたちも購入してくれましたが、数年経った今でも皆さん愛用しており、「とっても丈夫で使いやすいですよ!」「この色合いと番号のところがカッコイイんだよね!」など、大変喜んで使っている様子がうかがえます。今後も様々なアイデアを商品化して、貴重なゼッケンの価値をマニアだけではなく、一般のお客様にも広げていきたいと思います。

石井浩之（ピアしらとり施設長）

ピアしらとり

おわりに

最後に、一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会事務局からのご案内です。

ゼッケンバッグ製作販売プロジェクトは、平成26年度に障害者の工賃向上を主たる目的として立ち上げ、JRAファシリティーズ株式会社美浦事業所のご厚意により、JRA美浦トレーニング・センターで使用した調教用ゼッケンを無償でご提供いただけたことから始まりました。

また、プロジェクト立ち上げには、栗東トレーニング・センターのある滋賀県で既に事業として成功を収めていた、滋賀県社会就労事業振興センターや福祉事業所（びわこみみの里など）の方々に多大なるご協力をいただきました。

ゼッケン商品（Harnessのバッグ）は下記によりお買い求めいただけますので、ご覧いただければ幸いです。

http://www.harness.jp/zeichenbag.html

【お問い合わせ先】
一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会
〒310-0851　茨城県水戸市千波町1918
茨城県総合福祉会館内
TEL029-244-7461　FAX029-243-4429

はーとふる・ビレッジ